

令和2年度（第3回）北九州市子ども読書活動推進会議（要旨）

1 日時 令和2年11月18日（水）14：00～15：30

2 場所 北九州市立子ども図書館2階 大研修室

3 出席者

〔委員〕（敬称略）

山元 悦子、河井 律子、上満 佳子、本田 壽志、相良 勝弘、黒田 玲子、
大庭 里美、村岡 純、仲 紀子、尾場瀬 淳美、内藤 稚代、原田 多賀子、
龍 真奈美 計13名

〔事務局〕 小坪中央図書館長 他13名

4 議事

（1）次期「子ども読書プラン」（素案）について

（2）今後の策定スケジュールについて

5 主な内容

（1）次期「子ども読書プラン」（素案）について

（委員） 成果指標に「不読率」とあるが、子どもたちは空き時間に昔の童話をスマホで読んでいたりする。本が好きという意識がないが、それも「読書」であること伝えられないか。

（委員） 8ページ「生活の中で身近に本（マイライブラリー）を置き」を、「生活の中で身近に図書を置き、マイライブラリー（自分の本棚）を作る」にすると分かりやすいのではないか。昔は自分の本棚、父親の本棚、と本棚が家にあった。

（委員） 本は活字本という感じだったが、最近は、民話が動画配信されたり、読者と言わずに受容者と言われたりしている。新しいニーズが入れられないか。

（委員） 特別支援学校では、本を手取る機会がない、できない子どもがいる。GIGAスクール構想により、1人1台、タブレットが配布されると、表示画面で大きな文字に切替える等により、本を読めるという意識が持てるようになると思う。「不読率＝本を読む」だけでないと意識を変える必要があるのではないか。

（委員） 目指す姿＝ビジョンを「様々なツールをとおして、読むことを楽しみ、情報入手する子どもを育てる」ではいかがか。

（委員） 「本とは電子書籍等を含む」と、語句の説明として整理すればよいのではないか。不読率の調査をする際も、それを説明の中に入れれば、（電子書籍等を入れても）問題はない。

（事務局） 7ページの「読書の意義」の欄外に記載はしているが、分かりやす

くしたい。不読率を上げるために、指導部と学校訪問をしているが、学校側に子どもの「本を読む」について認識の差があるようだ。基準を決め調査をするようにしたい。

(委員) 7ページ「読書の意義」の中に、中高生向けに「自分を高める」を入れてはいかがか。

(委員) 「市立図書館における読書活動の推進」の、「⑥読書ボランティアなどの育成・支援」は、「学校における読書活動の推進」の方に入るのはないか。

ボランティアの活動状況等、現時点での状況の把握をすることで、3つの方向性の3番目の「子どもの読書を支える大人を増やす」の方向性が見えてくると思う。

(事務局) ボランティアの活動状況の把握について、子ども図書館と地区図書館とが情報交換・連携していく必要がある。

(委員) 読み聞かせ側が自分たちのブックトークを撮影し、ボランティア団体とオンラインで意見交換等をしている。

(委員) コロナ禍で、ボランティアが学校・図書館等に入れず現状だが、読み聞かせボランティアの代わりに「選書ボランティア」として、ふさわしい本を選ぶという活動もあるのではないか。

(委員) 「(1) 家庭における読書活動の推進」の「④読書の日、読書カードの実践」についてどのように思われるか。

毎月23日の読書の日が、現在、形骸化しているように聞く。

「子ども読書の日」は、「家で本を読もう」が多い中、子ども図書館から発信する。情報が提供される。積極的に、図書館から発信する。「読みましょう」だけでなく、「図書館から発信する日」にしてはいかがか。

(委員) 毎月23日の読書の日を形骸化しないためには、それに携わる人の意識の問題と思う。

「読書まつり」を年2回、春と秋に、読書について啓発するイベントもよいのではないか。

学校において、ボランティアを養成するのは難しいと思うので、市立図書館で「育成支援・連携支援」のため、協議会を作り、読書ボランティアの育成支援をする。ボランティアの中には、「読み聞かせ」「選書」活動をする。

(委員) 「毎月23日は読書の日」について、中学校では、毎月第3木曜は「部活動休止の日」で、部活動をしない日である。日を決めると、周知しやすい。

中学の現状は不読率が高い。GIGA構想が進めば、その数字がもっと

悪くなるだろう。GIGA 構想でのタブレットに電子書籍は入らない。その中で、どのようにして子どもたちに読書を勧めていくか。

自分の中学では、「自分の手元に本を一冊置く」ことを勧めている。先日、検診の待ち時間（1時間）に、我が校の子どもたちは本を持って行った。このような事を全市的に広めていけば本を読むようになる。

「23日は読書の日」は決めてもらっていた方が、学校現場としては動きやすい。

（委員） 「毎月23日は読書の日」について、具体的な事例を提供すると、学校側も実践しやすいのではないか。

「北九州子ども読書の日」は、シビックプライドを醸成する意味でもよいと思う。北九州市在住の作家から、おすすめの本を発信する、子どもの頃に読んだ本を紹介する。北九州市ゆかりの作家の本を、おすすめ本に必ず1冊入れるなど。

（委員） 「北九州市子ども図書館アプリ」を作るなどしたらいかがか。北九州市ゆかりの作家の本が手軽に読める、北九州市ならではのアプリを作る。

（委員） 秋に子ども読書の日を設けるのはすごくいいと思う。小学校では、春は子どもを知ることで精一杯で、子ども読書の日どころではない。4月23日の子ども読書の日制定の最初の頃は、ボランティアと一緒に〇〇をしましろうと、実施していたが、この頃は形骸化している学校が多いのではないか。秋にすると、子どもが主体的に活動することができ、読書を深めることができる。

（委員） 秋は、子ども同士が活動できる時期なので、そういう取組みになればよい。

（委員） 読書の日を23日に設定するのはよい。実際、何を読んだらいいか手渡すことができたらいいいので、選書ボランティアはいいと思う。子どもが「必読」する本が資料にあると、子どもがクリアできる喜びにつながる。

（委員） 23日は、こんな本もあるという情報提供の日になる。図鑑など、自分では手に取らないので、広げる意味でも「情報提供の日」でもいい。

（委員） 学校でのボランティア活動で、低・中・高学年向けに、自分で読めるおすすめ本のプリントを配布してもらった。今は、新春に向けて選書している。このような活動について読書ボランティア団体で情報を共有し、連携して北九州で活動していきたい。

福岡県立図書館が事務局の「福岡「子どもの読書」関連団体連絡協議会」。北九州はまだ設置されていない。子ども図書館が立上げ、設置してもらえたら、協力していきたい。

中・高校生が中心となり活動する「YA研究会＝ティーンズ」。月1回～2回、子どもたちが選書した本をヤングアダルトコーナーに並べる等、YA研究会を子ども図書館で立上げ、本を読む子どもから読まない子どもに広げていければいいと思う。

小・中学校のおすすめ本の展示だが、中央図書館の目立たないところに貼ってある。子ども図書館に掲示をする場所がないのでとのことだったが、残念。

(事務局) 先週の土曜に子ども司書養成講座の代わりに図書館講座を実施し、ブックトーク、図書館について、ポップ作り等をした。子どもたちには、学校で読書好きな人から、友達で本を読まない人、先生、図書館職員に、今日の講座の内容を伝えることがミッション（役割）であると話したところだ。指導部にも見てもらった。働きかけにより、本を手取る見守る・支援する大人を増やし、子どもを支援する。

(委員) 「(1)家庭における読書活動の推進」「②保護者による読み聞かせの実施(ブックセカンド)」とあるが、「ブックセカンド」とはどういう意味か。2冊目の本がもらえるのかと思う。誤解を与えるのではないか。

(事務局) 「はじめての絵本事業」で母子手帳交付時にももらった絵本を、親がどのように読み聞かせをしていくのか。動画を配信、発信、絵本の作家の他の作品に広げていく等、活用していただくためのものを想定している。

(委員) 計画の視点が学童期からのようだが、子どもの乳幼児は、まず読んでもらい「心地よさ」を感じる。「(1)家庭における読書活動の推進」の中にそれを入れてほしい。「読み聞かせ方」について補うことをしていただきたい。乳幼児期を大事にし、絵本で読み聞かせをしないと、読書・本に親しむようにならないと思う。

(委員) 「(1)家庭における読書活動の推進」「②保護者による読み聞かせの実施(ブックセカンド)」は、「絵本を使った「心の交流の場」、はじめてののての絵本事業」の次の事業として、何かよいネーミングがないか。

(委員) お母さんから、「子どもの反応が分からない。」「絵本の読み方が分からない」等言われる。

(委員) 本を読むことは、愛を伝えること。

(委員) 「聞く」「話す」「読む」「書く」の順に発達する。赤ちゃんの「聞く」が最初に育つ。読み聞かせが読書である。10歳までにたくさん読み聞

かせをしていただく。読み聞かせ＝愛情の表現。声に出して読むことが、読み聞かせの大切さ。「保護者が我が子に読み聞かせをするための、読み聞かせ講座」もいいと思う。

(委員) 「(2) 学校における読書活動の推進」「②学校、学校図書館と市立図書館との連携強化」についてだが、常に学校図書館と市立図書館が連携するのは大変である。システム面での連携、図書館カードの連携ではいかがか。

(委員) 学校図書館と市立図書館のシステムの連携は可能か。

(事務局) それぞれシステムが違うので連携は難しいと思う。

(委員) 市立図書館の本は、学校図書館にインターネットにつながるパソコンがあるので、検索はできる。北九大の図書館は市立図書館のカード番号で大学図書館の図書カードを作っているように、学校図書館のカード番号を市立図書館のカード番号に合わせることはできると思う。市立図書館のカードを子どもに持たせておくのは、紛失することが多いと予想され、管理の工夫が必要になってくる。

(事務局) 全市の小・中・特別支援学校の子どもが、市立図書館のカードを持つよう、図書館見学の際、保護者に事前に申請書に記入していただき、図書館に来て、図書館カードを作り、本を借りて帰ると、自分の図書カードという意識が持てると思う。

(委員) 「(2) 学校における読書活動の推進」「②学校、学校図書館と市立図書館との連携強化」に、「小学校2年生の市立図書館の見学」とあるが、学校の教育課程の関係で、国語科、総合的な学習で、9月に子ども図書館を見学し、子どもたちは図書カードを作り、喜んでいて。校区には図書館がないが、保護者に市立図書館に連れて行ってもらったと喜んでいて。読書通帳が子ども図書館にしかないの、近くの図書館に置けないかなあといつもつぶやいている。6年間の間に一度は図書館見学に子どもたちを連れていきたいが、校区に図書館があるかないかによって、交通費の負担が生じる。小学校では、連合音楽会などでバス代、タクシー代を負担していただくことがあったので、PTAと連携すると実現しやすいのではないかと思う。

(事務局) 小学3年の社会科見学、生活科等、単元に限らず、必ず、どこかの学年で全員来てもらえるようにする。

(委員) 「(3) 市立図書館における読書活動の推進」「③非来館型サービスの導入など機能の充実」のなかの、「レファレンス事例集」については、国会図書館、北九州にもあるが、子どもたちに対し、図書館をうまく利用する方法について、年に1回、夏休みにでも、講座があれば

いい。また、サーチャージャー（必要とするデータを検索して引き出す技術者）達人の育成・養成研修もできるとよい。

（事務局） 中央図書館が子ども向けの事例集を作成していたので、第2版、第3版と、ホームページに掲載していきたい。

（委員） 本日、発言できなかったことがあれば、事務局あてにメールで送っていただきたい。

本日出た意見の取扱いについては、私と事務局とで詰めさせていただくので、了承いただきたい。

（2）今後の策定スケジュールについて

- | | |
|-------------|-----------------------------------|
| 1 1月26日 | 教育委員会会議で素案を協議 |
| 1 2月市議会 | 常任委員会（教育文化委員会）に素案・パブリックコメントの実施を報告 |
| 1 2月中旬～1月中旬 | パブリックコメントの実施 |
| 2月 | 第4回 子ども読書活動推進会議 |
| 3月 | 教育委員会会議に最終案（成案）を議決 |